

平成11年度

モデル事業による上下流交流の有効性実証調査
報 告 書

平成12年3月

国土庁水資源部水源地域対策課
パシフィックコンサルタンツ株式会社

— 目 次 —

調 査 目 的

調査の概要

■ 調査の概要	1
■ 木曾川流域・木曾郡	3
■ 吉野川流域・嶺北地域	17

これまでの調査からの考察

I. 水源地域対策における上下流交流の考え方	30
II. 上下流交流の中の「人」の役割	38
III. 上下流交流の充実・発展	43

調査本編・木曽川流域

1. 調査の背景と目的	木曽川 1
2. 木曽の上下流交流の現状	木曽川 3
3. 木曽川における上下流交流の課題	木曽川 16
4. 木曽川の上下流交流を進めていく上での視点整理	木曽川 17
5. 上下流交流の議論の進め方	木曽川 18
6. 今後の課題	木曽川 52

調査本編・吉野川流域

1. 調査の目的	吉野川 1
2. 調査の進め方	吉野川 2
3. 上下流交流に関する嶺北地域の現状	吉野川 3
4. 上下流交流に関する嶺北地域の課題	吉野川 9
5. 嶺北地域において上下流交流を進めていくための視点	吉野川 10
6. 上下流交流の対応方向と取組方策（案）	吉野川 15
7. 今後の課題	吉野川 20
8. 仮想研究所・吉野川流域文化研究所	吉野川 25
参考. 嶺北地域における上下流交流の取組	吉野川 38

調査の目的

【調査の背景】

平成 10 年 3 月に閣議決定された「21 世紀の国土のグランドデザイン（新しい全国総合開発計画）」では、国土の保全と管理に関する施策として流域圏に着目した国土の保全と管理を掲げている。

その中では、生活様式や土地利用の変化に伴う健全な水循環の消失や、中山間地域における過疎・高齢化の進展による森林・農地の荒廃など、流域の姿は大きく変貌を遂げており、国土の持続的な利用と健全な水循環の保全・回復に向け、流域圏レベルで総合的に施策を展開するとしている。そして、水問題や自然への関心の高まりとともに、流域で取り組まれている様々な市民活動や自治体活動へ支援を行うことで、流域意識や上下流意識の醸成を目指している。

こうした中、上下流の関係として、“水源地域と水資源を享受する下流域との間に、水源地環境の維持・保全に関する認識の共通化” “交流人口の拡大による水源地域の活性化” などが有力な方法として考えられ、上下流交流事業が注目されている。

しかし、具体的事業や具体的進め方については、個別に取り組まれているままで、どのような方法が有効であるかは、あまり実態が把握されていない。さらには、同じ流域に複数の自治体が存在することで、上下流交流事業への熱意に差があることなどが原因となって、初歩的、限定的、個別的な段階に留まっている状況が散見される。

【調査の目的】

上記のような背景を踏まえ、本調査では、上下流交流の取り組みの調査対象地域として、木曾川流域の木曾郡と吉野川流域の高知県嶺北地域を取り上げた。具体的なケーススタディを通じて、水源地環境や上下流の関係に対する住民の意識、具体的な上下流交流事業の効果、問題点等を把握し、その結果から上下流で交流する意義と今後上下流交流を活発化させる上で必要な方法について検討することを目的とした。
